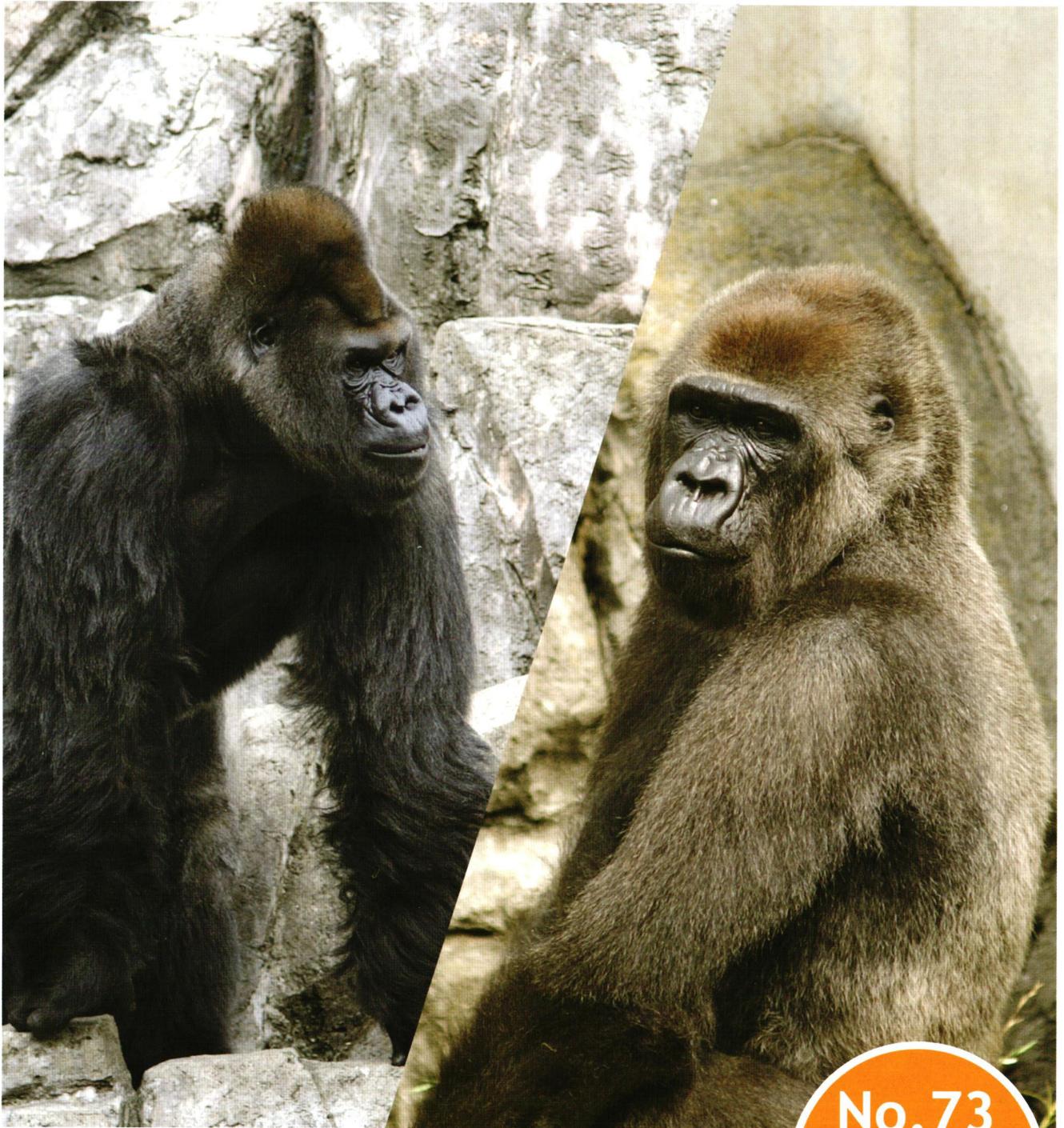


どうぶつこうえん ニュース



No.73

2009

秋

アミメキリン「竜王がやって来た！」



みんなで仲良くお食事。左が竜王

6月2日の朝、京都市動物園から2007年7月28日生まれのアミメキリンのオス「リュウオウ」がやって来ました。名前の由来は、「高く大きく育つように」と京都の「竜王山」からつけたそうで、その名に恥じず1歳と9か月時で身長3.3m、体重560kgと健康優良麒麟児です。さて、リュウオウをキリン舎に入れる為、クレーン車を使ってキリンの部屋の前に輸送檻を下し、天井のペニア板を開けると「ここは、どこなの？」という様子で少し興奮気味で輸送檻の中で歩き回っていました。でも人懐っこいこの事だったので輸送檻のドアを開けるとすぐに出ていこうと予想していました。「ところがどっこい」。ドアを開けても一向に出ない。好物の木の葉やペレットで誘ってもだめ。輸送檻の両側から追い立てても、かたくなに出ない。仕方なく持久戦に切り替えて、2時間以上かかってやっと部屋に入ってくれました。

でも環境が大きく変わって精神的な負担が大きかったらしく、餌をほとんど食べず、こちらとの距離を一定に保つ日が3日間つづき、ようやく4日目から、人がいなくなる夜間に徐々に食べ

るようになりました。こんなリュウオウの性格から展示場に出す事が一番の難関になる事が予想されました。というのも展示場へは、部屋から60m程の「出勤通路」を歩かねばならず、来園した歴代の普通?のキリンさえも展示場に出るのに1週間以上かかる経緯があったからです。対応策として始めに当園の2頭のメスのキリンのアジム(24歳)とサツキ(11歳)親子をリュウオウの部屋の前でドア越しにお見合いを行いました。神経質なサツキは、一度だけリュウオウと顔をつき合わせただけであとは一度も近づく事はありませんでした。でも落ち着きのあるアジムは、何回も鼻や顔を寄せ合ったりして友好的で一週間ほどお見合いを行って互いの認識を深めました。次にアジム・サツキ親子とのお見合いを部屋で行いました。案の定サツキは、リュウオウに対し一定の距離を保って動き回るばかりでしたが、アジムは、付きまとうリュウオウを嫌がらず友好的に対応したので、リュウオウもアジムの後をぴったりとついて回る行動が目立ちました。この流れを利用して展示場に続くドアを開けると、アジムについて屁っぴり腰になりながらも展示場に向かって「出勤通路」を歩いて行き、展示場の自動ドアの前では、まさに勇気をふり絞ってという様子でジャンプをしながら出て行きました。まさか一日目で出てくれるとは思わなかったので感謝感激アジム様様です。最近では、展示場に出て行く「出勤通路」の途中でアジムをまねて柵越しに生えている雑草を食べようとして道草をしたり、サツキと一緒に木の葉を食べたりと千葉の環境にだいぶ慣れてきました。いつの日か「箱入り娘サツキ」との間に赤ちゃんを見せてもらいたいと思っています。

佐藤幹雄 (SATOHI MIKIO)

目次

CONTENTS

表紙[ニシゴリラ]	①
トピックス[竜王がやって来た!]	②
国際ゴリラ年	③
アメリカバイソンの繁殖	④
アメリカビーバーの繁殖	⑤
飼育よもやま話	⑥
動物病院から	⑥
動物公園日誌から[09.4/1~09.6/30]	⑦
ちばZooフェスタのお知らせ	⑧
サポーター会員募集のお知らせ	⑧
Information	⑧

表紙の動物説明 ニシゴリラ

今回も分類の話になります。近年、DNAの解析などの進歩から、新しい分類方法が発表されました。

この分類は、IUCNやCITESに採用されているほか、書籍でもこれを多く採用しています。ゴリラに関しても同様です。

既存分類では、ゴリラは、霊長目、ショウジョウ科、ゴリラ種(ニシローランドゴリラ亜種、ヒガシローランドゴリラ亜種、マウンテンゴリラ亜種)でしたが、新分類では、サル目、ヒト科、ニシローランドゴリラ種→ニシゴリラ種(ニシローランドゴリラ亜種、クロスリバーゴリラ亜種)ヒガシローランドゴリラ・マウンテンゴリラ亜種→ヒガシゴリラ種(マウンテンゴリラ種、アウインディゴリラ種)としています。

また、CITESでは、亜種までは分類せず、ニシゴリラ種は、ゴリラ種(Gorilla gorilla gorilla)、ヒガシゴリラ種は、マウンテンゴリラ種(Gorilla beringei beringei)としています。いずれにしても、国内で飼育されているゴリラ25頭全て、ニシゴリラです。表紙のゴリラは、昨年末上野からやって来た、ケンタ(雄・写真左)・ローラ(雌・写真右)です。上野に再度嫁入りした、モモコは、現在妊娠中で、秋には無事出産してくれることを期待しています。近い将来日本でゴリラが見られなくならないように…

小林 正典 (KOBAYASHI MASANORI)

写真撮影 宮川 千尋 (MIYAKAWA CHIHIRO)

動物飼育数

平成21年6月末現在の飼育数

哺乳類	66種	451点	鳥類	69種	296点	爬虫類	6種	30点
両生類	1種	2点	魚類	1種	2点	総計	143種	781点



開催風景

今年は何年? ○○年?



皆さん、今年は何年だかご存知ですか?
うし年ですって。それは今年の干支ですよね。
今年が「国際ゴリラ年」というのはご存知でしたか?

国連環境会議 (UNEP) や大型類人猿保存計画 (GRASP)、国連教育科学文化機構 (UNESCO) および世界動物園水族館協会 (WAZA) がパートナーとなり、絶滅の危機にあるゴリラについて広く知ってもらい、保護しようとするキャンペーンの一環です。

ゴリラは今、絶滅の危機にあります。その理由として、食糧や伝統的な薬のための狩猟、森林伐採、鉱物採取、薪炭生産による生息地の破壊、武力紛争の影響、さらにはエボラ出血熱のような伝染病の影響などが挙げられます。

ゴリラは最も大きな類人猿です。類人猿の仲間にはゴリラのほかにチンパンジーやボノボ、オランウータン、テナガザルなどがあげられますが、これらの仲間はサルよりもむしろヒトに近い存在です。ゴリラとヒトでは98.4%の遺伝子が同じだとも言われています。ゴリラは一見無骨そうに見えますが、実はとても繊細で心やさしい動物です。以前アメリカの動物園で、ゴリラの



モンタ

檻の中に落ちて動けなくなった男の子をメスのゴリラが助けて、飼育員に保護を求めたという話があるくらいです。

そして野生のゴリラは、彼らが住む熱帯雨林で、生態系の一環になう重要な働きをしています。ゴリラは200種類以上の植物の果実や葉、茎などを食べて暮らしています。ゴリラが食べた果実の中にはその種子が入っていて、それらを離れた場所で糞として排出することでそこからその一部が発芽し、成長していきます。このようにして生態系は維持されていくのです。しかしゴリラを含むすべての類人猿が自然から姿を消そうとしています。

千葉市動物公園では現在、国際ゴリラ年企画展を動物科学館で



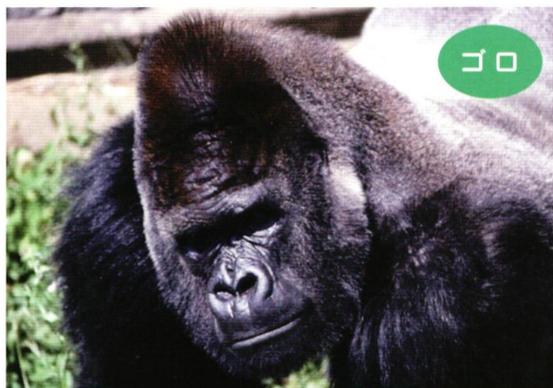
モモコ

年内いっぱい開催しています。ゴリラの生態や野生での現状などをパネルで説明しています。

そして一つ朗報が。繁殖目的で上野動物園に貸し出しているモモコが妊娠していることがわかりました。10月ごろ出産の予定です。野生だけでなく日本の動物園でも数が減り続けているゴリラたち。モモコは日本のゴリラの、そしてゴリラを愛する我々の希望の星です。

皆さんも今年はゴリラについてもう少し知ってみませんか?

伊藤 泰志 (ITO H YASUSHI)



ゴロ

アメリカ バイソンの繁殖

バイソンには、ヨーロッパに生息するヨーロッパバイソンと、北アメリカに生息するアメリカバイソンの2種類があります。ヨーロッパバイソンは第一次世界大戦の食糧確保で乱獲されたことも影響し、1919年に野生では絶滅してしまいましたが、動物園にわずかに飼育されていた個体から増やして、ポーランドなど東ヨーロッパの国立公園で1,000頭あまりが保護されています。

アメリカバイソンも西部開拓時代に乱獲され、一時、絶滅の危機にありましたが、政府を中心とした保護策により、徐々に数を回復しています。現在では国立公園などで保護されている個体を含めて35万頭と推定されています。アメリカバイソンは、オスでは900～1,100キログラム、肩までの高さは1.5～2メートル近くにもなります。

アメリカバイソンは、7月から9月にかけて交尾期となり、妊娠期間は約9カ月、通常は、1頭の子どもが生まれます。

当園のアメリカバイソンは、今回初めて子どもが生まれました。父親の名は「ターバン」、母親は「ヒート」で、どちらも2001年生まれの8歳です。2008年の秋、ヒートはときどき食欲が落ち、軟便が続い

たり落ち着かない様子の日々が続いていましたが、今考えますと、それは妊娠初期の症状だったと思われます。2009年の4月には、だいぶおなかがふっくらとして、4月の終わりごろには乳首が目立つようになり、ターバンがしきりにヒートを一日中追尾して、においをかいだりすることも観察されるようになりました。そして、5月14日、ついに出産の朝を迎えました。

有蹄類の多くは、子どもは前足をそろえて生まれてきます。前足の次に鼻先がでて、肩が出ると、あとは間もなく産み落とされます。しかし、ヒートの場合は違っていました。最初に見えてきたのは後ろ脚の片方です。いわゆる「逆子」の状態です。通常ですと、陣痛に伴い、子は産道をわけなく進んでいくのですが、片足をのぞかせたまま、ヒートはそこに座ってしまいました。すわったまま陣痛に耐え、ときどき、決心したように立ち上がっては部屋の中をぐるりと一周します。少しずつ見える足が長くなり、8時頃にはもう片方の足もいっしょに見え始めました。こうして11時ごろ、肩が出て、頭と前足も同時に出て、無事出産を終えました。

ヒートは疲れもみせず、すぐに子をなめて羊膜をきれいにとり、鼻先で押して子が立ち上がるのを助けます。昼過ぎにはすっかり毛も乾き、午後2時ごろ立ち上がると、お乳も飲み始めました。哺乳類の繁殖では、まずこの「初乳」が飲めたかどうかを確認することがとても大事です。また、反芻(はんすう)をする動物の場合は、母親が子どもの口や肛門をなめてあげることで、ルーメンとよばれる大きな胃袋の中に、セルロースを分解して栄養にできる微生物を、唾液と一緒に送り込むことができます。

子どもはオスでケビンと名付けられました。すくすくと育ち、1週間ほどたつと母親のまねをして草を噛んでいます。うっすらと前歯も確認できるようになり、3週間たつと少し草を食べることができるようになりました。しかし、十分草を食べられるようになった今も、ときどき母親のお乳を恋しがってもらっています。ヒートは痛いのでしょうか、ときどき、後ろ足でやさしく蹴って拒否することもあります。

6月1日より、ヒート、ケビンの親子と、父親のターバンを初めていっしょに展示場に出してみました。ターバンは、とくにケビンを攻撃することもなく、ときどきケビンのほうがターバンに近づいていきます。なごやかな家族での数日を経て、その後はターバンをヒートといっしょにすることはしていません。時間をきめて、ヒートとケビンを放飼し、ターバンは午後2時間ほど運動のために展示場に出ています。

ケビンですが、生まれたとき50cm程度だった体高(地面から肩までの高さ)は、8月1日現在約90cmを超えるようになりました。鳴き声も、ムーという声から、ウーという声にだんだん変わってきました。色も白っぽい茶色から明るい茶色になってきています。親は黒に近いこげ茶なので、どのくらいで親の色になっていくのか、観察していきたいと思います。

並木美砂子(NAMIKI MISAKO)



生後4日目



おっぱいを飲んでます(42日目)



2ヶ月半たつて体色が濃くなってきました

アメリカビーバーの繁殖



タライで泳ぎの練習(5日目)

今年の4月23日、アメリカビーバーの子どもが4頭生まれました。ビーバーは丈夫な門歯を使って木をかじり倒し、巣や、川をせき止めるためのダムを作るげっ歯目の仲間です(ネズミやリスなどがあてはまる)。上手に水の中を泳げるように、後ろ肢には水かきがついていて、尾はボートのオールのような形をしています。



個体識別用の印付け(今は付けていません)

新米飼育係の私がビーバーの担当になった去年の4月、当園で飼育しているオスの「ドン」とメスの「ピン」は、仲が良いとはいえませんでした。ドンがピンに近づくだけで、ピンは威嚇してドンをそばに寄せない状態だったので、仕方なく2頭を仕切りで隔離し短時間のみ仕切りを開けて様子を見るという日々でした。



体重測定(13日目)

この2頭の関係に変化が訪れたのは、私が担当になって1ヶ月くらい経ったころです。まだ掃除道具(水を切るワイパー)をうまく扱えていなかった私は、うっかり掃除道具でピンをドンの泳いでいる池に落としてしまったのです。私はこの2頭が大喧嘩をするのではないかと、大慌てで先輩を呼びに走りました。しかし、先輩と共に戻ってみると…なんと2頭は仲良く池で泳いでいたのです。

その後2頭の関係はどんどんよくなり、お互いの体を毛づくろいし合ったり寄り添って寝たりするようになりました。もちろん2頭を隔てる仕切りを開ける時間も長くなり、ついには24時間同じ空間にいるようになりました。私の失敗はもちろん失敗ですし、いまだになぜなのかよくわかりませんが、あの出来事のおかげでビーバー達の関係はどうやら良い方向に転じてくれたようです。

そして約1年の月日が経った現在、ビーバーの子どもが生まれ、私も飼育係2年生になりました。ドンとピンはあの頃の陰悪ぶりが嘘のように協力し合って子育てに奮闘し、私は初めての子育てながらしっかり子どもの面倒をみるビーバーの両親に驚かされっぱなしです。子どもたちもすくすく大きくなり、午後の餌の時間に6頭揃って仲睦まじく餌を食べている様子をご覧になれますので、是非見にいらしてくださいね!!

石田郁貴 (ISHIDA YUKI)



家族で食事中



飼育よもやま話

ミナミコアリクイの食事

アリクイは、ナマケモノやアルマジロと同じ貧歯目に属しません。

ナマケモノやアルマジロには食べ物を咬みつぶ歯が少しありますが、アリクイには全く歯がありません。

ミナミコアリクイは、南アメリカ北東部および東部の森林に生息し、おもに夜に活動しています。

「アリ食い」は名前のように、自然界では大きい強靱な前足の爪を使ってアリ、シロアリ、ハチの巣を壊し、伸ばすと40cmくらいになる細長い舌を使ってアリやシロア리를舂め取って食べます。特に樹上性のシロアリが大好物です。

しかし、飼育下では、大量のアリやシロア리를毎日供給することはできません。

そこで動物園では、栄養面や嗜好性を考えて缶詰のドッグフードにヨーグルト、バナナ、カルシウム剤、各種のビタミン剤に蜂蜜と水を加えてミキサーにかけてペースト状のものを作り、容器に入れて与えます。

缶詰のドッグフードにも好みがあり、いろいろ試しましたが、今のお気に入りにはビーフの角切り缶です。

食事を展示場の餌台にセットするとまず匂いを嗅いで前足の強靱な爪で、食事の入っているステンレス製の丸鉢の中をすごい勢いでかき回しながら食べます。これはこのアリクイの癖なのか、それともアリ塚を壊しながら食事をしているつもりなののでしょうか？

また果物も食べ、アボカドやグレープフルーツ(ルビー)が大好きです。二つに切ったアボカドは大きな爪を器用に使って果肉を削り取って皮だけを残し、きれいに食べます。

コアリクイの食事をご覧になるには、9時30分の開園直後か夕方の4時頃がお勧めです。どうぞ動物科学館1階夜行性動物舎においてください。

柴海 邦成 (SHIBAKAI KUNISHIGE)



動物病院から

破傷風という病気があります。これは、破傷風菌を原因菌とするヒトや動物の感染症の一つで、土壤中に存在する嫌気性桿菌である破傷風菌が、一般的な外傷、手術などの傷口から体内に侵入することで発症をさせるもので、土壌病の一つです。動物では、家畜伝染病予防法という法律に基づく届出伝染病であり、対象動物にはウマ、ウシ、スイギュウ、シカが入っています。

破傷風菌は芽胞として日本中の土壤中に常在しており、多くは自分で気がつかない程度の小さな切り傷から感染します。芽胞は、土の中で数年間生きており、ヒトや動物が感染する可能性があります。芽胞は、創傷部位で発芽、増殖し神経毒素を産生し、この神経毒素が運動中枢神経を侵し、重症の場合には全身筋肉の強直、けいれんを引き起こします。ヒトでは、舌がもつれ、会話の支障をきたすことから始まり、歩行障害、全身のけいれんと徐々に重篤な症状が現れ、最悪の場合には死にいたりします。予防用に不活化ワクチンがあり、ヒトは子供のときに定期接種する三種混合ワクチンや二種混合ワクチンに含まれていて、生後3カ月から11歳くらいにかけて数回接種します。

動物園では、破傷風に感染しやすいウマ、ロバ、グレイシーシマウマ、ハートマンヤマシマウマ、マレーバク、アジアゾウ、ホンドザルに定期的にワクチンを接種しています。ウマやロバはヒトと同様にワクチンを注射できますが、シマウマやマレーバクなどは吹き矢を使うこととなります。予防接種により、動物園では幸いにも破傷風は発生していません。

中村 誠 (NAKAMURA MAKOTO)

吹き矢がおしりに刺さったグレイシーシマウマ





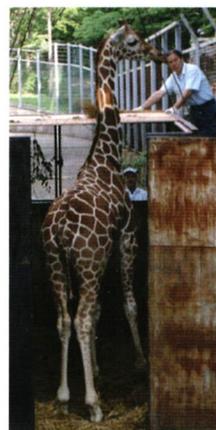
動物公園日誌から

'09年4月1日～'09年6月30日

- 4月1日 エリマキキツネザル(雌)、あごの周囲が腫れている。ヒワコンゴウインコ、CCDカメラを使用し、雛1羽と卵2個を確認。
- 4月2日 エリマキキツネザル(雌)、下あごに膿瘍があって自壊して出血する。捕獲し治療する。
- 4月3日 アフリカハゲコウ(雌)、午後、放飼場にいなかったため、園内を探したところタンチョウ放飼場付近の樹上に発見し捕獲を試みるが園外の民家の屋根へ逃げる。日が暮れたため捕獲は翌日とする。
- 4月4日 アフリカハゲコウ(雌)、朝、昨日の民家の屋根にいて、捕獲しようとするが飛び去り、10か所程度を移動し草野中学校付近のマンションの屋上で日が暮れたので捕獲は翌日とする。
- 4月4日 アフリカハゲコウ(雌)、昨日のマンションの屋上で鎮静剤入りのアジを与えるが食さず。その後、数か所を移動し夕方には送電線の鉄塔に止まったため、東京電力により追い払ってもらった。暗くなっていたためその後行方不明。
- 4月5日 アフリカハゲコウ(雌)、朝より搜索を開始し、マンションの屋上にとまっているのを発見する。アジに鎮静剤を入れ食べさせると今回は食した。鎮静剤が効いてきた様子なので捕獲しようとするが飛び去るが民家の屋根で発見する。高所作業車で捕獲を試みたところ地上に降りたので捕獲する。動物公園に連れ帰り入院する。
- 4月7日 アフリカハゲコウ(雄)、本日より展示再開する。
- 4月12日 アオダイショウ、今年初めて採餌する。
- 4月13日 **フタユピナマケモノ(仔)、木登り練習用の組木を屋外の非展示エリアに設置し、ロープを張る。**つかまらせると鳴くが木もロープも少し渡る。アフリカハゲコウ(雌)、退院し、9時より雄と一緒に放飼場に出す。
- 4月15日 フタユピナマケモノ(仔)、木渡り等を練習する。
- 4月16日 バタスザル(雄)、検疫中の個体、麻酔下で各種検査実施(1回目)。
- 4月19日 フクロテナガザル(雌)、残餌が続いている。
- 4月19日 フクロテナガザル(雌)、引き続き食欲がなく、一度口に入れても吐き出す。痩せてきている。口まわりには熱感はなく、腫れもない。本日一度も鳴かない。
- 4月20日 ワンポイントウォッチング開催(エジプトハゲワシ)。
- 4月20日 フクロテナガザル(雌)、捕獲し抗生剤を注射する。
- 4月20日 アメリカビーバー(雌)、腹部が大きくなっている。
- 4月21日 フクロテナガザル(雌)、グレープフルーツ、オレンジ、トマトはよく食べるが全体的な食欲はまだ回復しない。夕方は葉物をよく食べる。本日2回鳴くがいずれも短時間で終了する。雄と夜間、別にする。
- 4月24日 アメリカビーバー(4頭)、繁殖。
- 4月25日 アメリカビーバー、室内の水飲みを抜き、金ダライに薄く水を張る。ドーム内にU字溝を2個設置。
- 4月27日 スローロリス、体重測定。No.8、体重減少のためレントゲン撮影、採血等を行う。
- 4月28日 キンカジュウ、No.13、雄と判明する。
- 4月29日 スローロリス(No.8)、少しずつ餌を食べたす。
- 4月29日 アメリカビーバー(仔)、寝室内の水を張った金ダライに浮かび、子どもが泳ぐ練習をするが雄親がすぐに引き上げて保護する。
- 5月2日 バタスザル(雄)、検疫中の個体、麻酔下で各種検査実施(2回目)。
- 5月3日 アフリカハゲコウ、愛称発表(雄・アフロン、雌・アプリン)。
- 5月3日 子ども動物園飼育ウマ類、日本脳炎ワクチン接種(1回目)。
- 5月6日 ヒワコンゴウインコ(雛)、体重測定(1,000g)。
- 5月6日 アメリカビーバー(仔4頭)、体重測定。①830g、②950g、③860g、④725g。
- 5月7日 ヒワコンゴウインコ(雛)、体重(1,030g)。羽が成鳥と同じ形になっている。
- 5月9日 **ワタボウパンシェ(2頭)、繁殖。**
- 5月10日 ワタボウパンシェ(仔)、昨日生まれた仔のうち1頭、親より離れて落ちている。保温、哺乳後に戻すと親が連れ戻す。サポーターズデイ開催。
- 5月11日 バードウィーク講演会開催。
- 5月11日 アメリカビーバー、朝子ども4頭とも泳ぐ。
- 5月12日 ワタボウパンシェ(仔)、5月10日に落ちていた子、朝落ちていたのでも哺乳し戻すが親がうまく抱かなくなる。保育器へ収容する。



- 5月13日 ワタボウパンシェ(仔)、昨日保育器へ入れた仔、死亡(頭部打撲)。シロエリハゲワシ、けがをしていたため、捕獲し治療を行い入院させる。
- 5月14日 アメリカバイソン(1頭)、繁殖。
- 5月15日 ムフロン(1頭)、繁殖。
- 5月15日 ワオキツネザル(仔)、3月30日生まれの仔、雌親の背中から地面に降りてオレンジを手で持って舐めていた。
- 5月18日 シロエリハゲワシ、授乳確認。
- 5月18日 ニシゴリラ、10:00～11:45の間、モンタとローラをペアリングする。お互いにほとんど近づかない。一度、下段でモンタがローラに走りよるがローラが叫び、その後は離れたままとなる。
- 5月24日 ワンポイントウォッチング開催(フタユピナマケモノ)
- 5月25日 バタスザル(雄)、検疫明けのため比較舎へ移動。
- 5月26日 ニシゴリラ、9:30よりモンタとローラをペアリング。お互いに無関心で近づかないが11:15に隣の放飼場にケンタを放飼し、格子越しに見えるようにすると雄2頭が意識しはじめ、モンタが扉をたたいたリドリングをする。モンタは手は出さないもののローラの近くを走り抜ける。ローラは絶叫して逃げるが何度か繰り返すうちに逆にモンタを追いかける。格子を閉じると落ち着きその後無関心。
- 5月26日 バタスザル、雌2頭が雄を追い回す。大きなトラブルはない。
- 6月1日 キクユクロブス(雄1雌1)、下痢、元気低下のため、治療し入院。
- 6月2日 オニオオハシ用の樹洞の巣箱を設置する。子ども動物園飼育ウマ類、削蹄。子ども動物園飼育ウマ、耳標を再装着する。
- 6月2日 **アミメキリン(雄)、京都市動物園より新着。**オニオオハシ、昨日の巣箱に興味を示す。稲毛中学校、職場体験実施(3日まで)。
- 6月3日 アミメキリン(雄)、昨日、到着した個体、ほとんど採食ない。
- 6月4日 プレーリードッグ、巣穴の巣材の中に仔を6頭確認する。
- 6月4日 ヒワコンゴウインコ(雛)、体重1,100g、噛む力が強くなっている。草野中学校、職場体験実施(5日まで)。
- 6月7日 アミメキリン(雄)、徐々に食欲出てくる。大人の飼育体験実施。ヒツジの毛刈り教室開催。
- 6月8日 ニシゴリラ、モンタとローラをペアリングする。モンタは時々ローラをゆっくり追うがローラは逃げてしまう。
- 6月10日 セキショクヤケイ(雄1)、多摩動物公園より新着。
- 6月10日 ケープペンギン(雛)、痩せているため捕獲し冷房室へ隔離。ナベコウ、巣から離れていたのを確認すると卵1個は割れており、もう1卵は無性卵であった。
- 6月14日 ファミリーシアター開催。
- 6月15日 レッサーパンダ、風太とチチチペアリングするが特に問題はなし。風美とクウタとチイタもペアリングする。クウタとチイタが風美を追いかけ、追いつめられると風美が攻撃をした。
- 6月16日 ヒワコンゴウインコ(雛)、巣箱入口に足をかけて、顔を出していた。
- 6月16日 カリフォルニアアシカ、全頭にフィラリア予防薬投与。
- 6月16日 プレーリードッグ、仔が3頭放飼場で青草を食べていた。
- 6月19日 学芸員実習生(東京農工大学)1名受け入れ(27日まで)。
- 6月20日 院内小学校へ出張授業へ職員派遣。
- 6月20日 幕張総合高等学校、職場体験実施(20日まで)。
- 6月20日 Zooキッズデイ開催。
- 6月23日 スローロリス、No.12、No.17を展示場で同居させる。
- 6月27日 椿森中学校、職場体験実施(24日まで)。
- 6月27日 プレーリードッグ(雌1)、死亡。
- 6月28日 ワンポイントウォッチング開催(タンチョウ)。
- 6月29日 セキショクヤケイ(雄1)、検疫明けのため、ヤケイ舎へ移動。



編集後記

.....

今年には国際ゴリラ年、当園でも夏休みにはゴリラに関する講演会があり、また、現在も展示を行っておりますが、いかがでしょうか。私たち人間による環境破壊が動物たちの住む自然界へも悪影響を及ぼしており、動物たちからエコ生活を考えることを教えられています。

秋の動物公園では、間もなくさわやかな秋風が吹き始めます。暑さで疲れた心身を癒しにどうぞお越し下さい。11月には、ちばZOOフェスタ・2009を市民の皆さまと盛り上げてお待ちしております。

どうぶつこうえんニュース編集委員

